

第 124 回

2016.2.12

企業経営動向調査

公益財団法人 徳島経済研究所

調査目的	徳島県内の企業動向を的確に把握すること
対象企業	県内主要企業 315社、回答企業 198社、回答率 62.9%
調査対象期間	2015年10～12月期の実績、2016年1～3月期および4～6月期の予想
調査時点	2016年1月上旬～下旬

要約

10～12月期の業況判断は改善 1～3月期は悪化するも4～6月期はやや改善の見通し

県内企業（全産業）経営動向調査結果によれば、業況判断BSIは、7～9月期と比べ、10～12月期（前期 当期： 13 + 1）は改善した。もっとも、前回調査時の予想（+5）と比べるとやや低い。業種別では、製造業（同： 19 9）、非製造業（同： 11 + 5）ともに改善したが、製造業が低い水準に留まっている。

先行きについては、1～3月期の業況判断（ 11）は、景気の緩やかな回復に一服感が続いている現状を反映し、悪化する見通しである。一方、4～6月期の業況判断（ 6）は、やや改善する見通しである。

10～12月期の設備投資は、実施企業の比率は前年同期より低下し、総投資額も製造業の減少幅が大きく前年同期比8.3%減の約206億円となった。先行き1～3月期の計画も、実施企業の比率は前年同期から低下し、金額も同5.7%減の見込みである。

今後1年間の設備投資意欲については、製造業、非製造業ともに悪化し、全業種でも2期ぶりに悪化している。

1. 概況 (全産業)

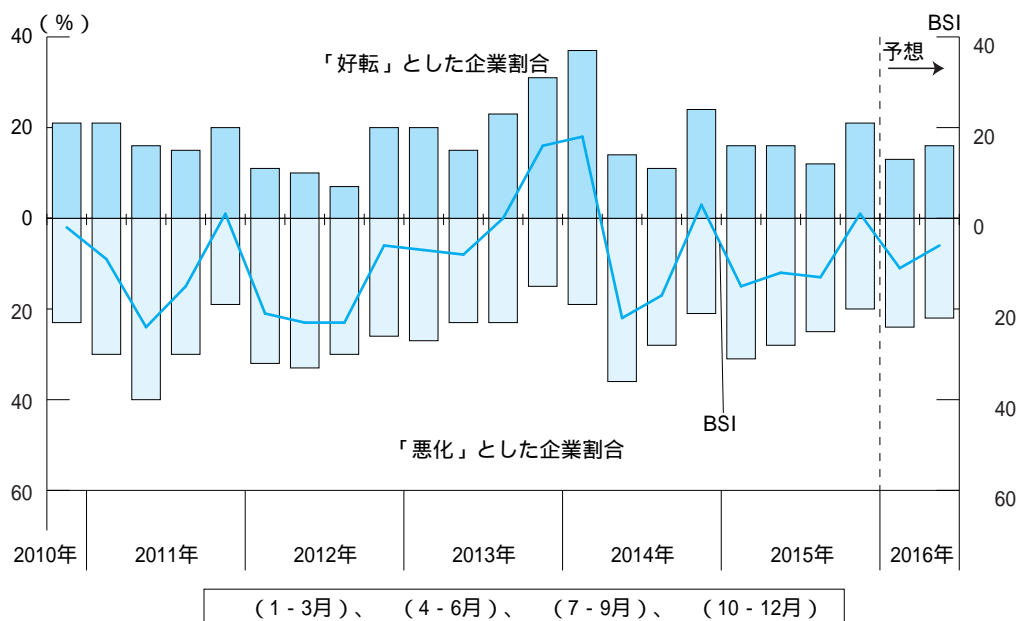
【2015年10～12月期の実績】 業況判断は改善したが、前回調査時予想よりもやや低い水準

県内企業の当期（2015年10～12月期、以下同じ）の動向をみると、7～9月期と比べ好転した比率が上昇したことなどから改善したとともに、1年ぶりにプラスとなった。

BSI（業況が「好転（増加）」と回答した企業割合から「悪化（減少）」と回答した企業割合を引いた数値）でみると、前期に比べ、売上げBSIは 19、収益BSIは 215、業況判断BSIは 131となっている。もっとも、業況判断BSIは前回調査時の10～12月期予想（5）よりもやや低くなっている。

10～12月期の業況判断BSIを2010年からみると、2161631（今回）と推移しており、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減からの回復がみられた前年同期とほぼ横ばいとなっている。

企業経営者による業況判断



図の見方

アンケートでは、売上げ、経常利益、業況の各項目について、前期に比べて「好転（増加）」「不変」「悪化（減少）」の回答を求めており、BSIはこのうち「好転（増加）」と回答した企業割合から「悪化（減少）」と回答した企業割合を差し引いた値です。

このBSIから、「売上げが何%伸びたか」など計数的な測定はできませんが、景気の転換点（景気の山、谷）や「好転感が県内の各企業にどの程度広がっているか」といった「浸透度」をみるのが可能です。

前期比は季節性が入りやすいので、前年同期と比較することも必要です。

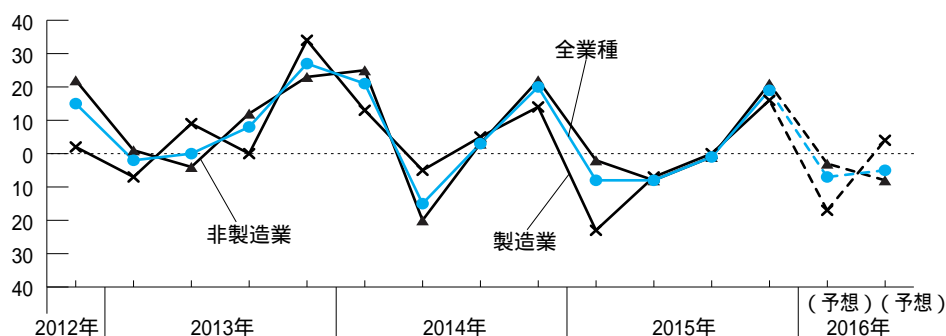
【2016年1～3月期の予想】 業況判断は悪化する見通し

1～3月期の予想は、緩やかな景気回復に一服感がみられる中、10～12月期に比べ、全業種の売上げBSI（19.7）、収益BSI（15.7）、業況判断BSI（11.1）はともに悪化する見通し。もっとも、この業況判断BSIは、前年同期の実績（15）よりもやや改善している。

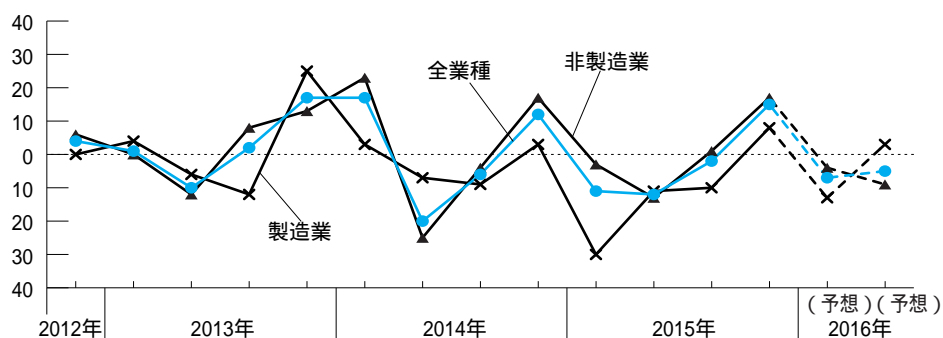
【2016年4～6月期の予想】 業況判断はやや改善する見通し

4～6月期の予想は、1～3月期に比べ、売上げBSI（7.5）と収益BSI（7.5）はほぼ横ばいの一方、業況判断BSI（11.6）はやや改善する見通し。また、この業況判断BSIは前年同期実績（12）を上回る見通しであり、悪化は短期で収束すると考える企業の多いことがうかがわれる。

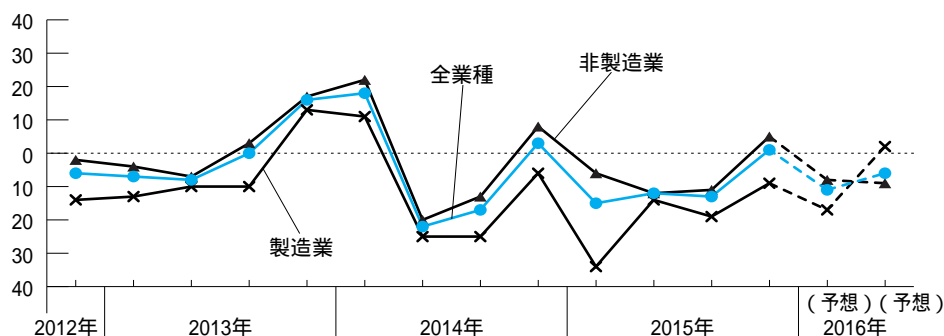
(1) 売上げBSI



(2) 収益BSI



(3) 業況BSI



2 . 製造業の動向

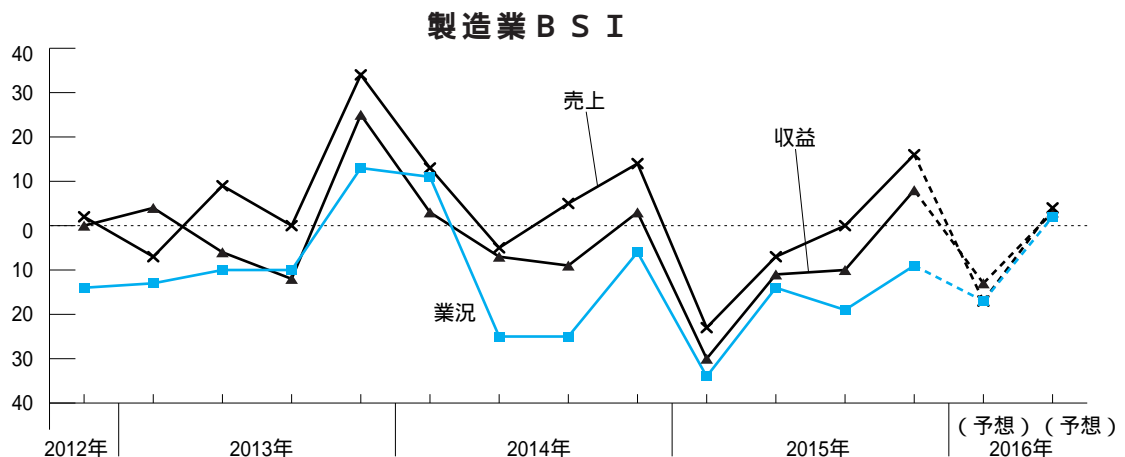
【製造業の現状】 業況判断は改善したが、前回調査時予想よりも低い水準

前期に比べ、売上げB S I (± 0 16 (前回調査時の予想 9))、収益B S I (10 8 (同 3))、業況判断B S I (19 9 (同 2))はともに改善した。前年同期と比べると、収益B S I (3 8)はやや改善、売上げB S I (14 16)はほぼ横ばい、業況判断B S I (6 9)はやや悪化と分かれた結果となっている。

【先 行 き】 業況判断は、1～3月期は悪化の一方、4～6月期は改善の見通し

1～3月期の予想をみると、当期に比べ、売上げB S I (16 17)、収益B S I (8 13)、業況判断B S I (9 17)はともに悪化する見通し。もっとも、この業況判断B S I の予想は、前年同期 (34)よりも17ポイント上回っている。

一方、4～6月期の予想は、1～3月期予想に比べ、売上げB S I (17 4)、収益B S I (13 3)、業況判断B S I (17 2)はともに改善する見通し。また、この業況判断B S I の予想は、前年同期 (14)よりも16ポイント上回っている。



3 . 非製造業の動向

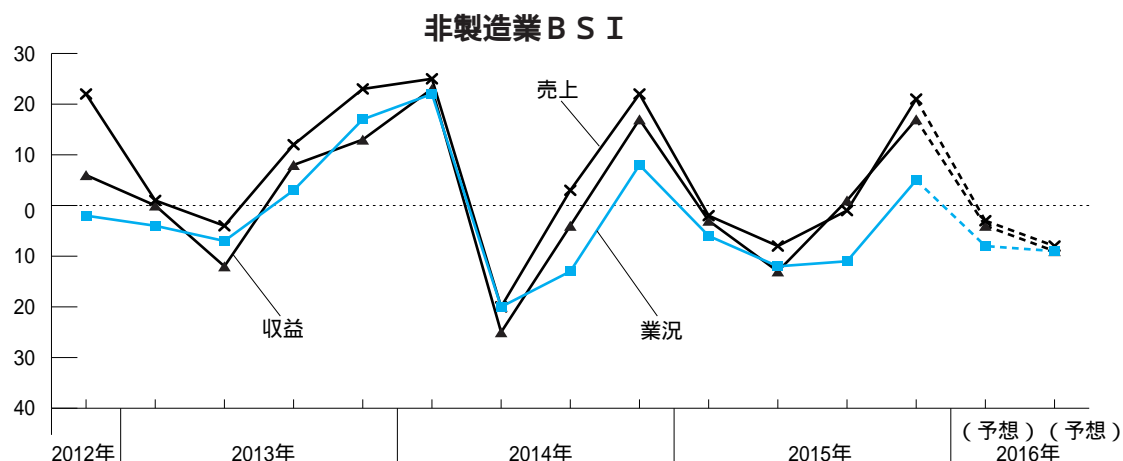
【非製造業の現状】 業況判断は改善し、前回調査時予想とほぼ横ばいの水準

前期に比べ、売上げB S I (1 21 (前回調査時の予想 18))、収益B S I (1 17 (同 16))、業況判断B S I (11 5 (同 7))はともに改善した。前年同期と比べると、売上げB S I (22 21)、収益B S I (17 17)は横ばい圏内、業況判断B S I (8 5)はやや低下している。

【先 行 き】 業況判断は、1～3月期は悪化し、4～6月期は横ばいの見通し

1～3月期の予想をみると、当期に比べ、売上げBSI（21→3）、収益BSI（17→4）、業況判断BSI（5→8）はともに悪化する見通し。この業況判断BSIの予想は、前年同期（6）とほぼ横ばいとなっている。

4～6月期の予想は、1～3月期予想に比べ、売上げBSI（3→8）、収益BSI（4→9）はやや悪化、業況判断BSI（8→9）はほぼ横ばいの見通し。一方、この業況判断BSIの予想は、前年同期（12）よりも3ポイント上回っている。

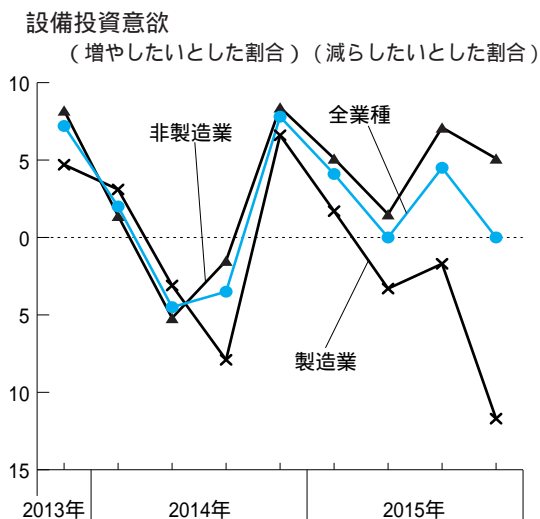


4. 設備投資の動向

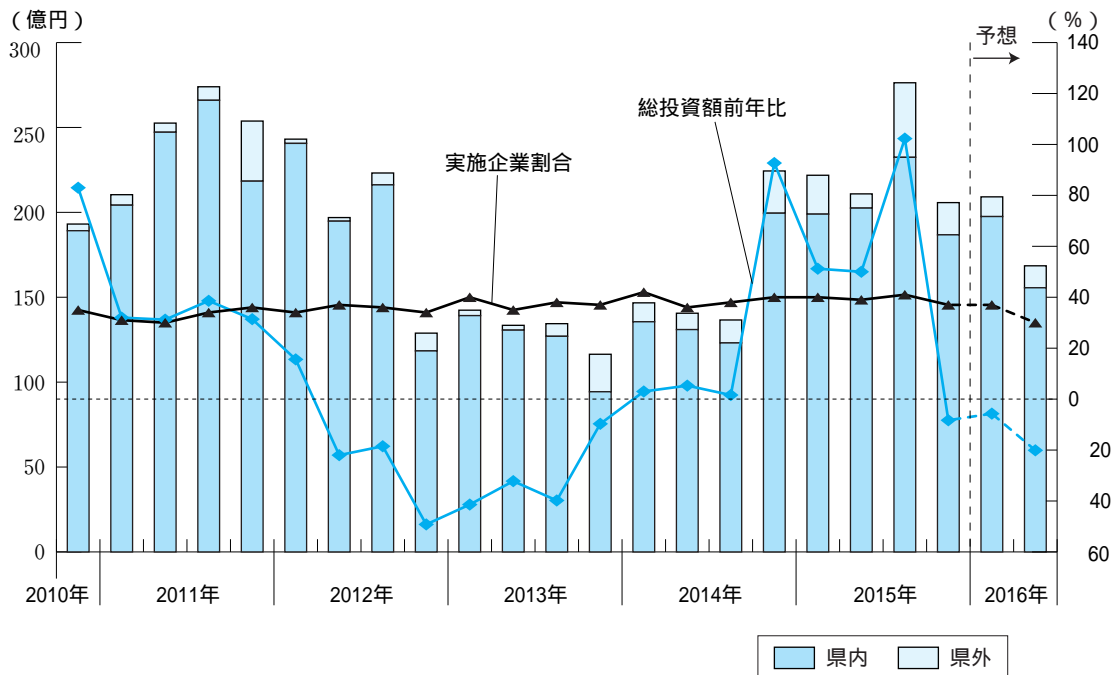
回答企業（全産業）のうち、当期において1百万円以上の設備投資（新規リース契約を含む）を実施した企業は全体の36.9%、総投資額は205億74百万円（うち、県内投資額は186億75百万円）であった。前年同期と比較すると、総投資額は、製造業の減少幅が大きく、全体でも8.3%減となった（前期比でも25.5%減）。また、実施企業の割合も3.2ポイント低下している。

一方、先行きの計画をみると、1～3月期の実施企業割合は37.4%で前年同期よりも低下し、総投資額は約209億円で前年同期比5.7%減となる見込みである。4～6月期の総投資額も約169億円で同20.1%減の見込みである。

今後1年間の設備投資意欲（全産業）は、「増やしたい」、「減らしたい」とともに15.2%、「ほぼ変わらない」が69.7%となった。「増やしたい」から「減らしたい」を差し引いた比率（±0ポイント）は、今後の設備投資を増やしたいとする企業が減少していることから2期ぶりに低下した。



設備投資額（支払ベース）



製造業

当期に1百万円以上の設備投資を実施した企業の割合は、45.0%で前年同期より4.2ポイント低下した。一方、総投資額は、179億12百万円（前年同期197億13百万円）で機械・金属を中心に前年同期比9.1%減少、うち県内投資額は166億90百万円（同178億83百万円）となっている。

設備投資を目的別にみると、前期と比べ、「既存設備の補修更新」、「合理化・省力化」の比率が上昇した一方、「増産・拡販のため」は低下している。

また、先行きの計画については、1～3月期の総投資額は約188億円で前年同期比0.7%減、4～6月期は約150億円で同19.5%減の見込みである。

今後1年間の投資意欲について、先行き「増やしたい」とする企業割合（18.3%）が「減らしたい」とする企業割合（30.0%）を11.7ポイント下回り、この差も前期（1.7ポイント）から拡大している。

非製造業

当期に1百万円以上の設備投資を実施した企業の割合は、33.3%で前年同期より2.5ポイント低下した。また、総投資額は、26億62百万円（前年同期27億25百万円）で、小売や建設で増加したものの運輸やサービスでの減少により前年同期比2.3%減少、うち県内投資額は19億85百万円（同20億68百万円）となっている。

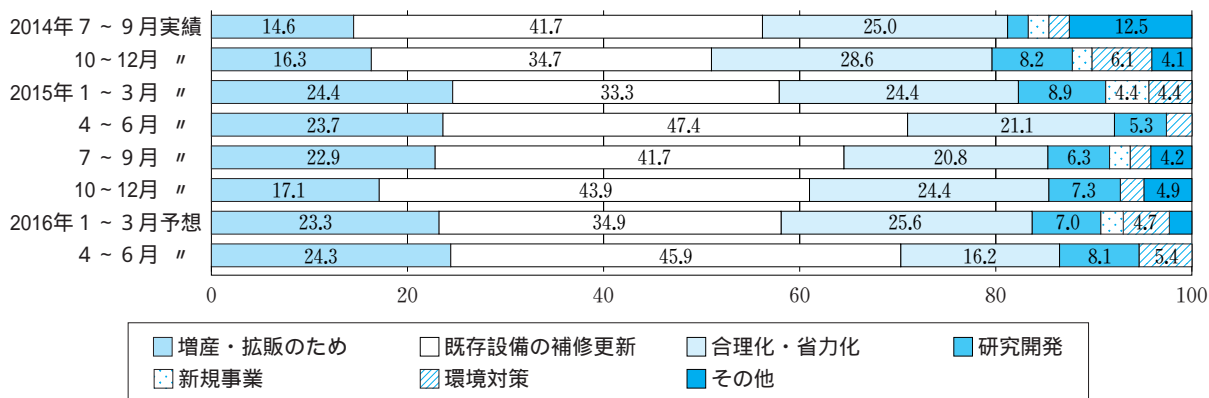
目的別にみると、前期と比べ、「拡販のため」、「合理化・省力化」の比率がほぼ横ばいとなった一方で、「既存設備の補修更新」は低下している。

また、先行きの計画については、1～3月期の総投資額は約21億円で前年同期比35.4%減、4～6月期は約18億円で同24.6%減となる見込みである。

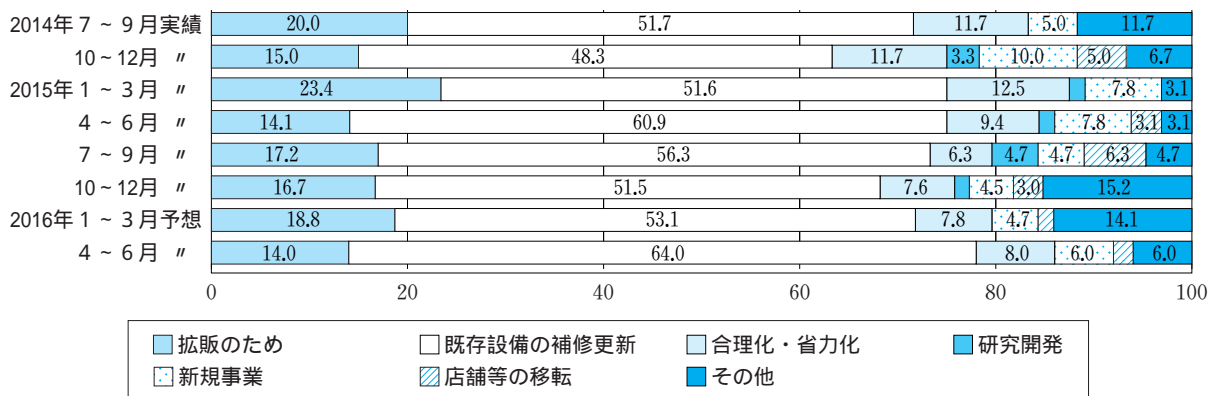
今後1年間の投資意欲は、先行き「増やしたい」とする企業割合（13.8%）が「減らしたい」とする企業割合（8.7%）より5.1ポイント上回ったが、この差は前期（+7.1ポイント）から縮小している。

設備投資の目的

(1) 製造業



(2) 非製造業



(複数回答)

回答企業の概要

		(社)		
		総数	製造業	非製造業
資本金規模	1百万円未満	0	0	0
	1～3百万円未満	1	1	0
	3～5百万円未満	4	1	3
	5～10百万円未満	4	1	3
	10～50百万円未満	116	32	84
	50～1億円未満	46	16	30
	1億円以上	27	9	18
	計	198	60	138
従業員数	10人未満	17	7	10
	10～30人未満	44	11	33
	30～50人未満	44	11	33
	50～100人未満	37	7	30
	100～200人未満	31	11	20
	200～300人未満	7	5	2
	300～	18	8	10
	計	198	60	138

	業種	回答
製造業	食料品	9
	繊維製品	4
	木材・木製品	11
	パルプ・紙	2
	化学工業	6
	窯業・土石	5
	機械・金属	17
	その他	6
	計	60
	非製造業	建設業
運送業		14
卸売業		39
小売業		25
サービス業		39
その他		1
計		138
総数	198	

参考資料

B S I

(1) 業況判断

(単位：%，ポイント)

	全産業				製造業				非製造業			
	好転	不変	悪化	BSI	好転	不変	悪化	BSI	好転	不変	悪化	BSI
2014年 4～6月実績	14	50	36	22	11	53	36	25	16	48	36	20
7～9月 "	11	61	28	17	9	57	34	25	12	63	25	13
10～12月 "	24	55	21	3	20	54	26	6	27	54	19	8
2015年 1～3月 "	16	53	31	15	9	48	43	34	20	54	26	6
4～6月 "	16	56	28	12	20	46	34	14	14	60	26	12
7～9月 "	12	63	25	13	12	57	31	19	11	67	22	11
10～12月 "	21	59	20	1	18	55	27	9	22	61	17	5
2016年 1～3月予想	13	63	24	11	10	63	27	17	14	64	22	8
4～6月 "	16	62	22	6	22	58	20	2	13	65	22	9

(2) 売上げ判断

(単位：%，ポイント)

	全産業				製造業				非製造業			
	好転	不変	悪化	BSI	好転	不変	悪化	BSI	好転	不変	悪化	BSI
2014年 4～6月実績	28	29	43	15	32	31	37	5	26	28	46	20
7～9月 "	31	41	28	3	33	39	28	5	30	43	27	3
10～12月 "	44	32	24	20	39	36	25	14	46	30	24	22
2015年 1～3月 "	28	36	36	8	22	33	45	23	31	36	33	2
4～6月 "	29	34	37	8	31	31	38	7	28	36	36	8
7～9月 "	27	45	28	1	32	36	32	0	25	49	26	1
10～12月 "	41	37	22	19	43	30	27	16	41	39	20	21
2016年 1～3月予想	24	45	31	7	20	43	37	17	25	47	28	3
4～6月 "	24	47	29	5	27	50	23	4	23	46	31	8

(3) 経常利益判断

(単位：%，ポイント)

	全産業				製造業				非製造業			
	好転	不変	悪化	BSI	好転	不変	悪化	BSI	好転	不変	悪化	BSI
2014年 4～6月実績	24	32	44	20	31	31	38	7	21	33	46	25
7～9月 "	26	42	32	6	25	41	34	9	26	44	30	4
10～12月 "	36	40	24	12	31	41	28	3	39	39	22	17
2015年 1～3月 "	26	37	37	11	22	26	52	30	28	41	31	3
4～6月 "	24	40	36	12	28	33	39	11	22	43	35	13
7～9月 "	27	44	29	2	29	32	39	10	26	49	25	1
10～12月 "	36	43	21	15	35	38	27	8	36	45	19	17
2016年 1～3月予想	21	51	28	7	15	57	28	13	24	48	28	4
4～6月 "	23	49	28	5	25	53	22	3	22	47	31	9

(注) B S I =(好転)-(悪化)